

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着に移行して、改めてつくった理念は毎朝の申し送りで復唱されその内容も共有されている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	内容については各々の解釈であったが次第に統一見解が強まった。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	管理者を中心として地域活動等へ職員や利用者が参加したとき「認知症」について少しでも理解してもらえようとしている。	○ 地域の中で暮らし続けるという意味の理解のためにもより専門性の高い知識の啓発が必要である。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の買出しの途中で出会う近所の方達との情報交換やホームの行事などへの招待、又いただきものなどがあればおすそ分けをしたりいただいたりしている。空き缶や空き瓶回収の方の休み所として夏場は麦茶やコーヒーなどを気軽に提供して。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の清掃や老人会の行事のお手伝いなどを通じ認知症を理解してもらおうよう努力して。近所の保育園とも交流を密にし事業所全体としておこなっている。	○ 続けていた地域ミニデイへのお手伝いは残念ながら自治会の都合により開催されていないが引き続き事業所全体でお役にたつことはないか交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症に対する相談や老人会一般の方達からの勉強会の開催依頼等があれば積極的におこなうようにしている。	○	地域に生活している高齢者が何を求めているのかの把握に努める。
3. 理念を実施するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施意義は把握している。又、評価内容を職員全体で検証し改善項目の具体策を話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催の頻度は極めて少ないと思うがその中ではより深い会話ができたと思う。しかしながら定期的な開催となると努力不足だと思う。	○	次回の開催は3月だが、その際に定期的な開催計画を提示しようと思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者と共にドライブの帰りなど市役所などに立ち寄り利用者本人を紹介したり常に情報を密にする様心がけているが一部の方にかたよっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の参加は有料、無料に関わらず積極的に参加させている。受講後は必ず伝達研修を実施して他の職員への周知を図る努力をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会などへ参加し他の職員へも周知させている。虐待にあたる内容を常に話し合いそのような事がないか確認し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり説明をしている。又、契約書を持ち帰ってもらい内容を十分理解していただいた上で契約している。質問事項についても対応し別途料金(立替等)の発生には事前に金額を提示し許可を得ている。看取りに関する質問は極めて少ないが専門職である看護師立会いのもとで内容を説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常発せられる何気ない言葉や表情、態度不満や苦情を感じ取り利用者本位の支援が出来るよう心がけている。定例ミーティングなどでも本人の欲していることは何かを細かく話し合っている。各担当は普段からの様子を記録に書き留めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会の際に伝えたり、写真などで報告したりしている。県外の家族へは職員が代行で電話をかけ、会話ができるようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス時や電話などでも対応している。外部者への相談窓口や相談方法を説明している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を実施し、本人の意見や提案に耳をかたむけている。又専門的な内容なら顧問である社労士などに相談を直接できるように配慮している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間不眠傾向の利用者には職員が交代で添い寝ができるよう調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限に抑えられるよう努力しているがやむ得ない場合でも今までとケアの食い違いや見解がないようにしている。引継ぎの際には離職する職員ができなかったことや新職員ゆえに期待できる支援を家族の意見を聞きながら取り組む姿勢を示している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一人でも多くの職員が外部の研修へ参加できるようにしている。又職員研修報告を開催し情報を共有できるようにしている。パートの職員でもチームの一員として研修会議の参加の機会を多く作っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡会がありその中で研修や勉強会がある。事例をとおして他事業所での対応法や意見を聞きケアに活かしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎月の勤務はほぼ職員の希望どおりに聞き入れるようにしている。年休に関しても交代で取れるようにしている。建物の構造上職員の休憩室はないが30分の休憩時間を交代でとっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>働きながら職員が資格を習得できるよう支援をしている。又顧問に社労士がいるので職員の就業規則等は適切に定められている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の面談で家族や本人に関係した方達より聞き取りを行っている。本人からの直接の相談はなくとも普段の生活から本人の求めている事はないかを考えている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでのサービスの利用や家族の苦労など入所事前に聞くようにしている。又、家族が求めていることは何か真摯に受け止めるように努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人より訴えがあれば本当に必要なことか見極め様々な専門職との調整をおこなっている。現在は2人の方が在宅マッサージを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学などは常に行われておりいきなりのサービス開始はない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に感謝の気持ちと人生の先輩であるということ意識した関係づくりを行っている。会話の中にもそれを取り入れている。方言など職員が「教えていただく」という場面を多くつづけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	取り組んでいることなどの経過報告や暮らしぶりを見ていただいたりして本人を共に支えている関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とキーパーソンとの関係はもちろんのこと複雑な家族関係にも極めて慎重な会話と理解に勤めるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	つながりが途切れないよう面会の際に職員が間に入り会話がスムーズにいくようにしたりしている。又、自宅に外泊することで本人のこれまでの大切な場所を忘れてしまわないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	こじんまりとした空間の中では孤立することは考えにくいが会話的にも関わり合えるよう共通の話題づくりに工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居したホームへ面会にいたり、ご家族とも近況報告を話している。なかには亡くなられたあともご家族とのつながりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と外出したいという本人の要望を家族にも協力してもらい実施したりしている。家族の行事や法事への参加など。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取り調査だけではなく入所後も把握に努めている。プライバシーや先方の立場を考えて頼りも出すようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄管理表や本人のケース記録を通じ総合的に把握している。最近からではあるがケアプランにあげられている項目の生活リハビリを通じ有する能力の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、担当者の意見を介護計画に反映していると思う。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時は情報を共有している。現状に即した対応もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入している。カードックスを利用し情報の共有を行っているが最近からではあるが日報に介護計画の実施を加え常に意識できるようにした。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や外出など本人の希望に応じて対応していると思う。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一般的な救急法もそうだが個別の救急法の勉強会を開催し消防との連携をとっている。地域ミニデイに以前参加した際、民生委員と情報交換している。今後の支援につなげていきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅マッサージを利用している方が2名、訪問診療利用者が4名。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所の協力病院だけではなく認知症専門医(精神科)の医師とも連携し相談にのってもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段から本人、家族の希望などを把握するよう勤め常勤の看護師を通じ確実にかかりつけ医へ伝えるようにしている。又家族が口頭で説明しにくい内容があれば経過報告書もたすようにしている。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	家族が要望するのか確認し、より具体的な話をする必要がある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後の変化に備えた対応策を数回にとどまらず何度も回を重ねていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段から気をつけているが利用者と職員の間が近くなると気がつかないところで言葉使いが悪くなっていると思う。定例のミーティングなどであらゆる場面での関わり方を点検している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思疎通が困難な方でもこちら側のペースで判断をしないで必ず説明や選んでもらうことをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、できる限り本人のペースを大切にしている。早い段階で本人の希望を感じ取るようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いわゆる「施設カット」のみにならないよう気をつけている。パーマをかけている方は現在一人。その際は職員が付き添っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の買出しに行けない方達でも、購入した商品に触れたりその名前を考えることで「食に楽しむ」場面を作るよう工夫している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶だけではなくココアやコーヒーなどを提供している。お酒、タバコを飲まれる方は現在はいない。	

沖縄県(グループホーム光風の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	独自で作った。排泄管理表に細かく記入しそのパターンを習慣化している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴は1日置きだが本人の希望、皮膚の疾患等の必要性に応じて対応し、強い入浴の拒否の方にも無理強いはなく、できるだけ自然に誘導できるように工夫をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠傾向にあり尚且つ一人では睡眠を取りにくい方には疲れが蓄積しない様に職員が交代で添い寝をしながら休ませるようにしている。食事の最中に傾きや眠気が強いようなら一時中断し休ませてから再開している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえ、お茶パック入れや洗濯物たたみ食事の下ごしらえ等、又、食器は職員が洗剤をつけると濯げる方がいるのでその環境つくりとタイミングをうまく取っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している人はいないが、毎日買い物に出掛ける方にお金を持ってもらいレジでの支払い等に参加させている。日によって混乱しそうな時は感覚のみを味わってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ本人の希望どりに外出できるよう支援している。その際体調や出掛けた後の様子まで考慮しながら短時間でもドライブなどができるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て行われている方は数名にとどまっているが本人や家族の会話などから希望の場所をあげ事前に下見に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接連絡できない方へは、職員が連絡し本人の「声」だけでも聞いていただくようにしている。はがきなどは担当を通じできるだけ返信するようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者を居室へ案内し、プライベートな時間が過ごせるよう職員はできるだけ立ち入らないように気をつけている。又、状態の質問には内容に配慮しながら返答している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間では常に話し合われている。家族へも対応策を伝えている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	殆んど鍵をかけることはない。その必要性があれば話し合いを持つようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守っている。夜間は時間毎に個人にあった方法で確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人にとって注意物とは何かを定期的に話し合っている。包丁に関しては時間毎の確認をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	無断で外出してしまう方の対策としてそのルートを研究し近所の方や商店街への協力願いを出している。又、誤薬がないように2重3重のチェック体制を行っている。事故報告書やひやり・ハットをもとに事故防止案を具体的に話し合っている。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故や急変時の対応法(個人)を作成し周知したがその方法をイメージし訓練を定期的に行っていない。	○	定期的にイメージし訓練する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所付き合いの中で話題にはするが具体的な話し合いはしていない。	○	防火管理者を先頭に今度防火訓練を行う予定である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ひやり、ハットの記入をもとに常に話し合っている。又、家族にも対応策を伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行っている。少しでも普段と違う点に気づいたらすぐその情報を職員間で共有し、看護師や主治医と連携し対応することになっている。家族への報告も速やかに行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はかかりつけの薬局より薬剤師により配達される。その際に処方せんの確認等は看護師が行うことになっている。薬のセットは夜勤者が行うことになっているが誤薬がないように2、3回のチェックを行っている。目的や効用についてもすぐにチェックできるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ自然な排便があるよう毎日ヨーグルトを提供している。以前は10時茶の時であったが、水分補給の徹底や他様々な理由により15時に変更し提供している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアや毎晩就寝前には義歯の洗浄(うち毎週月曜日と木曜日は入れ歯洗浄剤につけより確実な衛生保持に努めている。訪問歯科を利用している方は一人だが歯科衛生士より指導をうけより質の高い口腔ケアの実現に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や食事摂取表にて把握している。又嚥下が困難な方へはトロミや甘さを加えて提供している。栄養の摂取困難な方は担当医へ相談し高カロリー飲料を処方してもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染源となりうる可能性の場所はその都度消毒をしている。インフルエンザの予防接種率は職員・利用者100%である。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材によってまな板は使い分けている。又、食材の買い物は当日行うようにしている。業務日誌に安全確認の項目をつくり定時にチェックしたり、調理に入る前に衛生管理表の項目を実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口は完全に締め切らないで網戸をしている。利用者にとっても閉鎖感がなく虫なども入ってこないし開放的だと思う。駐車場を確保し玄関前が開放的になった。又、寒々しく感じていたコンクリートの壁には沖縄の花の写真を取り付けた。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食後の午睡時間はホーム内の明かりを落としリラックスできるようにしている。音に敏感な方が午睡中はスリッパの音や電話の受信にも気をつけている。又、ミキサーを使用する際には「○○さん大きな音がでますが大丈夫ですよ」とひと声掛けるように心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日にはホーム入り口のスペースでお茶等をいただいたり音楽を聴きながら外気浴をしている。常に職員が見守りができる位置にいる。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのぬいぐるみや、寝具類等を使用していただいているが家具に関しては必要最低限にとどまっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアや居室は朝や必要に応じて喚起を行っている。居室内には温度計を設置している。トイレは決められた時間の清掃ではなく必要に応じ清掃し消毒している。入浴の際、脱衣所にはストーブを置き浴室との温度差がないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所で立位状態からバランスが崩れそうな方の為に所定の位置に椅子が置かれている。又居室内も本人の状態にあわせて手すりを設置し安全の確保と自立へ配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お膳ふきのお手伝いはできる範囲数枚にとどめふきも小さめに準備する。	○	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら自分の力でやっていただけるか」を追求する。一時的な話し合いだけでとどまるのではなく職員間での話し合いを細かく行う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム入り口にはベンチがあり外気浴する際に使用している。外壁に利用者が喜びそうな写真をパネルにして演出している。	○	利用者と一緒に楽しみながら活動できるような環境づくりの工夫を検討する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム光風の家)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①看護師の配置により訪問診療などを取り入れ医療との連携が整い家族の方々からも「安心」であると言われている。 ②買い物支援など「できる」ことへの継続を支援している。